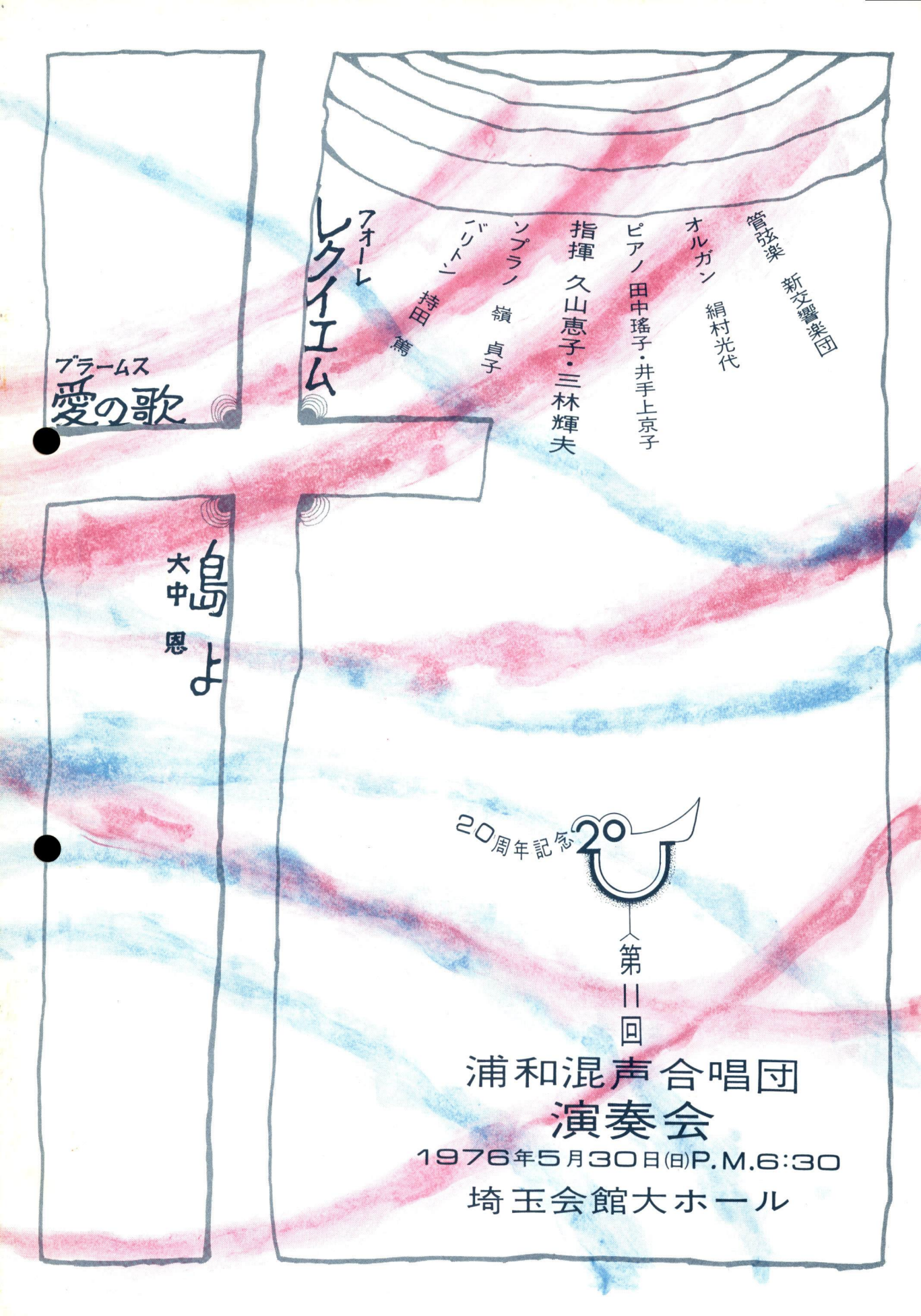

管弦楽 新芝響楽団
オルガン 絹村光代
ピアノ 田中瑤子・井手上京子
指揮 久山恵子・三林輝夫
ソプラノ 嶺 貞子
バリトン 持田 篤
フォーレ
レクイエム
ブラームス
愛の歌
大中恩
鳥よ
20周年記念
第11回
浦和混声合唱団
演奏会
1976年5月30日(日)P.M.6:30
埼玉会館大ホール

ごあいさつ

団長　浅岡満一

本日は浦和混声合唱団の演奏会のために、ご多忙中をご来場頂き、まことにありがとうございます。

顧みますと、浦混も昭和31年に発足してから今年で20年になります。人間に例えれば、満20才の成人式を迎えたところです。成人ともなれば、一人前としてもう周囲に甘えることもできません。私どもも、今まで多くの皆様方の暖かいご支援に甘えて、10回の演奏会を開くことができました。

そして本日、第11回演奏会を開くにあたって、果してどれだけ進歩したか、あるいは一人前になったか、皆様に判断して頂くのが、怖いやら心配やらの心境でございます。特に、本日後半のステージで演奏するフォーレの「レクイエム」は、6年前の第7回演奏会で演奏したこともあり、少くとも前回よりは良い演奏ができるようにと、団員一同一生懸命練習してまいりました。今回は、指揮者の久山恵子先生をはじめ、願ってもない一流の方々との共演で、あとは浦混の出来如何ということになりますので、その責任をひしひしと感じています。又、前半のステージでは、三林輝夫先生の指揮で、ブラームスの「愛の歌」と大中恩の「島よ」を演奏します。三林先生のご指導により、浦混の実力以上のものを引出して頂けるものと思っています。

どうか、つたない演奏でございますが、風薫る五月の一夜を、最後までゆっくりお楽しみください。そして、今後とも変らぬご支援とご指導を、心からお願い申し上げます。

ブラームス

愛の歌

（三林輝夫 訳詞）

指揮	第1ピアノ	第2ピアノ
三林輝夫	井手上京子	田中瑤子

① 乙女よ、こたえて (Rede, Mädchen,)
② ドナウの岸辺に (Am Donaustrande)
③ 恋人よ、きいて (Nicht wandle, mein Licht)
④ 森がざわめくと (Es bebet das Gesträuche)
⑤ 木々をさわがせ鳥はとぶ(Vögelein durchrauscht)
⑥ 恋人よ再びこの手に (Sieh; Wie ist die Welle klar !)
⑦ ナイチンゲールはうたう(Nachtigall, Sie singt so schön)
⑧ いや、がまんできないひとばかり (Nein, es ist nicht auszukommen)
⑨ かわいい小鳥が (Ein kleiner, hübscher Vogel)

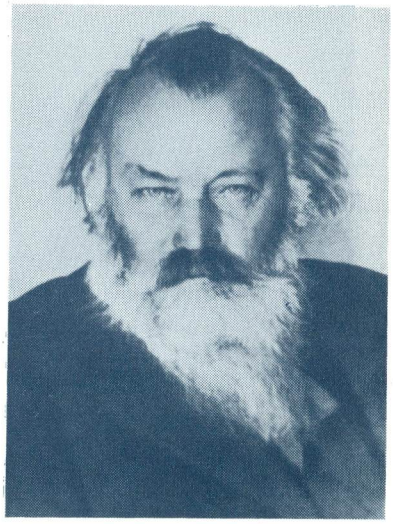
プログラム 1

かいせつ

三林輝夫

「愛の歌・ワルツ全18曲 op. 52」は1859年—1863年の間に、はじめ四重唱曲として、四手連弾を伴奏に、つくられたのち、数年たって管弦楽伴奏つき混声四部合唱に編曲されたりした。シューマンやクララとの想い出のしみついたデュッセルドルフを去り、ハンブルグを中心に腰をすえ、創作に打ちこんだ生活がはじまる。ゲッティンゲンで大学教授の令嬢との結ばれざる恋愛をしたのも1862年秋、ブラームス29才の頃である。このあとウィーン定住にふみきったブラームスはその評価、名声も次第にあがり、最も油ののった創作期を迎える。交響曲第一番、ヘンデルヴァリエーション、パガニーニヴァリエーション、数多くのすぐれた歌曲、といった生涯の傑作がこの時期に生れた。ウインジングアカデミーの指揮者に迎えられたほか、合唱とのかかわりあいが多くなったブラームスはこのあと大作「ドイツレクィエム」に向って深く深く凝縮する。

「愛の歌」には古くは吉田秀和訳、それに抜粋で伊藤武雄訳も見られる。が、いずれも文語体なので、美しく素朴でかろやかな歌唱のためには口語で歌えないものかと、拙訳を試みた。おきき苦しい所は多々お詫び申し上げたい。



J. Brahms

大　中　　恩

混声合唱曲　**島よ**

（伊藤海彦　作詩）

指揮　三　林　輝　夫

ピアノ　田　中　瑤　子

プログラム2

かいせつ

大中恩



大中恩

伊藤海彦さんの詩による合唱曲は、「風と花粉」「遙かなものを」「走れわが心」そして「島よ」等があります。「風と花粉」は無伴奏で五曲からなる小組曲ですが、あとの三曲は時間的にも20分以上かかる。またピアノを伴った骨太の曲です。「走れわが心」は男声合唱で、それ以外は混声合唱の作品です。後者三曲は芸術祭参加作品で、よく「芸術祭で受賞した作品で、後々まで残るものはない」と言われますが、その伝で行くと「遙かなものを」だけが救われることになるのです。しかし伊藤・大中作品は、合唱曲として、詩・曲ともに順次たくましさを加え、現代合唱曲に欠くことのできない〝力〟というものを身につけて歩んできたように思われます。

大変口はばったい言いかたですが、伊藤さんの詩に向った時、そのひとつひとつのことばには、私が日ごろもとめているほどの〝新鮮さ〟というものは感じません。けれども、伊藤さんが、見つめて煮つめて、じっくりとそこに用いた一語には、やはりそれだけの確信に満ちた重味のようなものが加わって、やがて、まるで初めて出あった言葉のように、私を音の世界へひっぱり出してくれるのです。「島よ」の制作過程で〝島〟というものを擬人化して歌うその詩の中に、伊藤さんは〝わたしは……する〟ということばを沢山使われるだろうと予期し、このことばの扱いかたに「遙かなものを」「走れわが心」で苦心した私としては、覚悟をきめて待っていました。予期に反して、〝わたしは……〟は現れず、長大な詩を読み終る寸前、最後の節に〝島よ、おまえは、わたしではないのか〟と遂に〝わたし〟が出て来た時に、私には既にこの作曲が出来あがってしまったほどの確信と感動に満されていました。なんだか伊藤さんのトリックにひっかかったような気分でしたが、こんな作品を生み出せたことを思うと、ひっかかったトリックにも口惜しさを覚えるどころか、創作する人間として倖せだと思うくらいです。

浦和混声の皆さんが、どのように歌いあげて下さるだろうか、と楽しみにし、期待するものです。

休憩

フォーレ
レクィエム
(Requiem)

指揮	ソプラノ	バリトン	オルガン
久山恵子	嶺　貞子	持田　篤	絹村光代

管弦楽　新交響楽団

1. Introitus·Kyrie　(入祭唱とキリエ)
2. Offertorium　(奉　献　唱)
3. Sanctus　(聖なるかな)
4. Pie Jesu　(あゝ、イエズスよ)
5. Agnus Dei　(神の子羊)
6. Libera me　(我を許し給え)
7. In paradisum　(楽園にて)

プログラム3

かいせつ

三林輝夫

「なにか堂々としていて、山高帽をかぶり、マントをまとった、立派な白い髭とすばらしい銀髪の紳士」―R・ピトルーはガブリエル・フォーレの風貌を子供の頃の印象として著書〝フランス音楽の11人〟（藤原裕訳・音楽之友社）の中でこう書いている。

フォーレは1845年、カトリックの信仰あついフランス南部はアリエージュ県のパミエに肉屋の六男として生れた。たまたまこの地方を視察したニデールメイエールの目にとまり、パリで音楽の勉強をすることになったのがフォーレ9才のときのことである。その幼なさを考えてもみよう。フォーレの音楽の宝物の多くは、声楽曲と室内楽曲にあるといえると思う。深い洗練された調性の色彩感、ラテン的な美しさを節度でくるんだメロディのかずかず、文学的教養に裏うちされた詩と音楽の快よい融和、　そういったフォーレの特質が結実した「レクィエム」は40才のときに父をなくした悲しみから生れることになった。そして1888年、彼のオルガニストとしての職場マドレーヌ寺院で初演されたが、その前に母までも失ってしまった。又フォーレ自身功成り名とげて、79才の生涯を終えたときも同じ寺院でこのレクィエムが演奏された。

レクィエムは云うまでもなく「死者を葬うためのミサ」であるが一般的なレクィエムと多少構成を異にする。大意は次の通り。

1．〝入祭唱とキリエ〟
永遠の安息を彼らに与え給え。主よ憐れみ給え、キリストよ憐れみ給え。

2．〝奉献唱〟
主よ讃美のいけにえと祈りを捧げまつる。

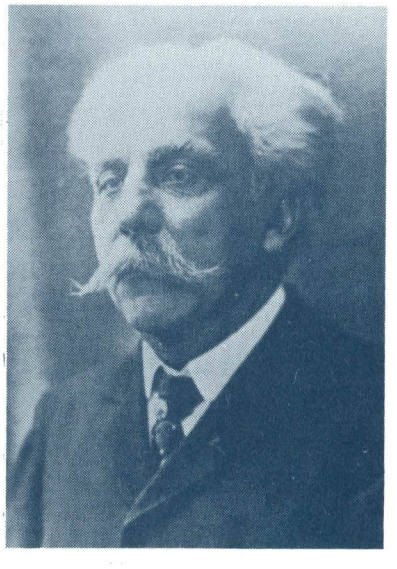
3．〝サンクトゥス〟（聖なるかな）
聖なるかな、万軍の主よ、御身の栄光は天地に満つる。

4．〝あゝ、イエズスよ〟
恵み深き主イエスよ、彼らに永遠の安息を与え給え。

5．〝神の子羊〟
世の罪を除き給う神の小羊よ、彼等に永遠の安息を与え給え。

6．〝我を許し給え〟
主よ、かの恐ろしい日（裁きの日）に我を永劫の死より解き放たせ給え

7．〝楽園にて〟
天使たち、汝をば天国に導き、殉教者たち汝をば迎え入れ聖なる都イエルサレムへといざなわん



G. Fauré

プロフィール



山内恵子

5才より園田清秀氏に音感教育、ピアノの訓練をうけ、以来ヴァィオリンを鷲見三郎、小野アンナ両氏、指揮法とチェロを斉藤秀雄氏、作曲を柴田南雄氏に師事する。桐朋学園オーケストラを始めとして、日フィル、東フィル、東響、群響等を指揮した。更に数次欧米に遊び、ストコフスキー氏、フランコ・フェラーラ氏等に師事するかたわら、各地にオーケストラの指揮活動をした。NHKテレビ「世界の音楽」の指揮をつとめた事は、特に人の知るところである。現在、東京交響楽団の指揮者として活躍している。47年8月以来、浦混は毎週その指揮を受けている。

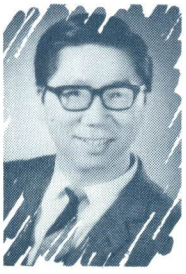


三林輝夫

昭和36年東京芸術大学音楽学部声学科卒業、38年同校専攻科修了。
木下保、渡辺高之助、古沢淑子の各氏に師事。
昭和37年東京労音「フィガロの結婚」でデビュー以来数多くのオペラ、コンサートに出演。
昨50年オペラでは「ロバンとマリオン」「ティレシアスの乳房」「スペインの時」創作オペラ「釘」ミュージカル「学生王子」、コンサートでは新日フィル「子供と呪文」他に出演した。
又、41・44・48年とフランス歌曲によるリサイタル等フランス声楽曲のスペシャリストとして高い評価をうけている。

二期会々員、フォーレの会主宰、東京芸術大二期会々員、東京室内歌劇場同人、フランス歌曲研究会々員、フォーレの会主宰、東京芸術大学講師。

1963年東京芸術大学声楽科卒業。1966年同大学大学院修了。中山悌一、畑中良輔、渡辺高之助の各氏に師事。1967年日生音楽シリーズでヘンデルのオラトリオ「アチ・ガラテアとポリフェーモ」（本邦初演）のバス・ソロを歌いデビュー、宗教曲を中心に、二期会、東京室内歌劇場などのオペラでも活躍、1970年第1回リサイタルを開く。1970年10月西ドイツ国立北西ドイツ音楽大学に留学、歌曲、宗教曲をギュンター・ヴァイセンボルン氏に、発声をヘルムート・クレッチマー氏に師事。かたわらドイツ各地で音楽会に出演し、1972年11月帰国。翌年1月に帰国記念リサイタルとして、シューベルトの「冬の旅」を歌い好評を博す。その後数多くのカンタータを始め、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲等のソロを歌い、宗教曲歌手としての声価を高め、又二期会、藤原歌劇団、東京室内歌劇場などのオペラでも好演している。毎日音楽コンクール第3位、日伊音楽協会声楽コンコルソ第2位入賞。二期会会員。



畑中萬

東京芸術大学声楽科・専攻科・大学院独唱科卒業。
第31回毎日音楽コンクール声楽部門第1位入賞。1970年からミラノに留学、E・カンポガリアーニ氏に師事、71年と73年にシエナのアカデミア・キジアーナの夏期講習で、イタリア歌曲の権威G・ファバレット教授に師事、帰国した。

1962年オラトリオ「天地創造」のソロでデビュー以後「メサイア」「第九」「ロ短調ミサ」「ミサソレムニス」「レクイエム」等のソロを各オーケストラと協演、又バッハのカンタータ（「結婚」「農民」「コーヒー」「神をいづこの地よりも歓呼せよ」他）ヘンデルのテレマン、スカルラッティのカンタータ、モーツアルトの演奏会用アリア等を室内合奏団と協演。

リサイタルは1969年から、イタリア歌曲の本邦初演ものを中心に、師であるカンポガリアーニ氏、ファバレット氏の伴奏で行ない、イタリア歌曲のスペシャリストとして高い評価をうけている。
現在、東京芸術大学講師、愛知県立芸術大学講師、二期会々員。



嶺京子

昭和31年東京芸術大学ピアノ科卒業。
昭和40年～41年欧米に遊学。
藤村るり子、福井直俊、ハンス・カンの各氏に師事した。
東京混声合唱団の創立に参画し、同合唱団をはじめとする合唱団および声楽家との共演としての演奏活動が多い。
浦和混声合唱団では第９回演奏会で「コタンの歌」のピアノをお願いしている。
現在、洗足学園大学講師。

田中玲子



井手上京子

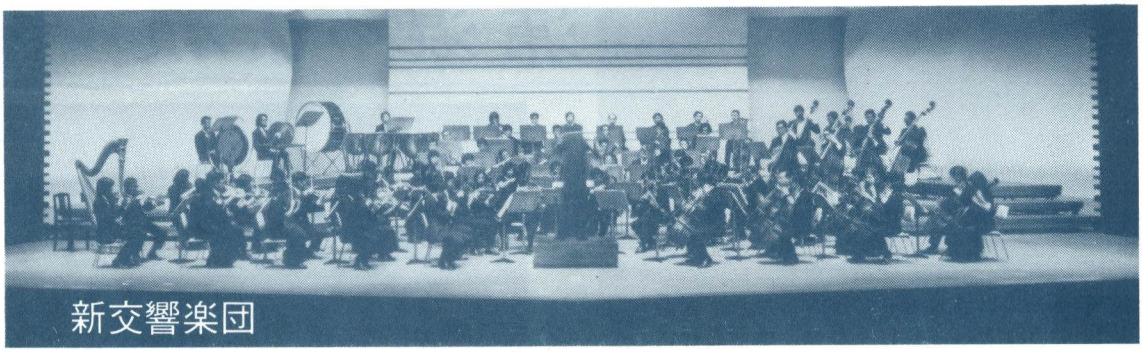
昭和48年、埼玉県教員養成所卒業
現在、大宮市立指扇小学校教諭
早いもので、浦混の伴奏を始めて四年目になります。学生だった頃からですので、浦混は、私の恋人のような存在です。毎年、回を重ねるごとに、成長していく彼氏を見て、とても、頼もしく感じているのです。



絹村光代



昭和28年　静岡県浜松市に生れる。
池内友次郎、志田笙子の各氏に師事。
44年　東京芸術大学音楽学部付属音楽高等学校作曲科入学
47年　東京芸術大学音楽学部オルガン科入学
秋元道雄、島田麗子の各氏に師事
51年　東京芸術大学音楽学部大学院オルガン科入学、現在に至る。



新交響楽団

昭和30年、作曲家・芥川也寸志氏の提唱により設立されたアマチュアオーケストラ。設立当初より芥川氏が常任指揮者・音楽監督として指導に当たられている。
新響の団員は現在百人で高校生からお孫さんのいるような年輩の方まで種々雑多であり、サラリーマン・主婦・学生等が集まっている。それぞれ仕事をやりながら、音楽を愛しオーケストラで音を出したいという共通の気持により、毎週１回定期的に練習をする事にしている。その成果の発表の場として年に数回の演奏会を行なっている。取り上げる曲は古典派、ロマン派が多いが、最近では昨年春の定期でストラビンスキーのバレー音楽三部作を一夜で演奏したり、この秋は邦人作品だけを取り上げるなど、時代に即応した新たな動きを示しつつある。今年は創立二十周年に当たり、例年以上に積極的な活動を目指している。
合唱団との共演は、毎年暮れの第九の演奏会などでその機会も多い。オーケストラとして外へ向かって働きかけて行く上でも、合唱団や他の音楽団体との交流を積極的に行なって行きたいと考えています。
所在地：新宿区須賀町14　大湊ビル内　ＴＥＬ．03－357－5255（月～金の午後）

ソプラノ

浦混のソプラノ、一口に云ってまじめで麗しきレディたちです。とは云っても決して乙にすましているわけではありません。その証拠にはメンバーのだれにでも話しかけてみてください、必ず優しいほほえみと親切な答がかえってくるはずです。

上は〇十代から下は十代まで、お孫さんのいる方もいれば家庭の主婦あり、小学校の先生、幼稚園の先生、ＯＬから大学生、高校生と、そのメンバー構成は様々、また合唱経験も音大を出た方から全く始めての方、学生時代から歌い続けている歌キチの奥様等々、ただ共通しているのは歌うことが大好きでハーモニーに魅せられそのとりこになって、仕事をやり繰りし、家族の協力を得て喜び勇んで練習にはせ参ずることです。母娘ほどの年令差もちっとも感じられず精神年令は皆二十代と自負しています。お互に余計な干渉もしないが暖かい心を持って接していると云った節度をわきまえながらも、ソプラノらしい明るい雰囲気が漂い楽しい会話がもれ、経験を積んだ潤いとつやのある声と、若くてはつらつとした延びやかな張りのある声とが程好くミックスして、美しいソプラノを醸し出しているのです。（海野なか子）



浦混の素顔



浦混のアルト、チームワークの良さは抜群。今回の演奏会でも、一人の落ちこぼれも無いようにと、パート練習を真先にするのが、その一例。プランを立てたのはお世話係のＴ嬢、Ａ嬢。でも、全員がそれに応えることができたのは、ひとりひとりにハートがある、ということ。さらにそれは、練習だけにとどまらず、ケーキとお茶でちょっとしたティー・パーティーにまでなるのだもの、練習の成果は言うに及ばず。皆で「和気あいあい」のアルトです。

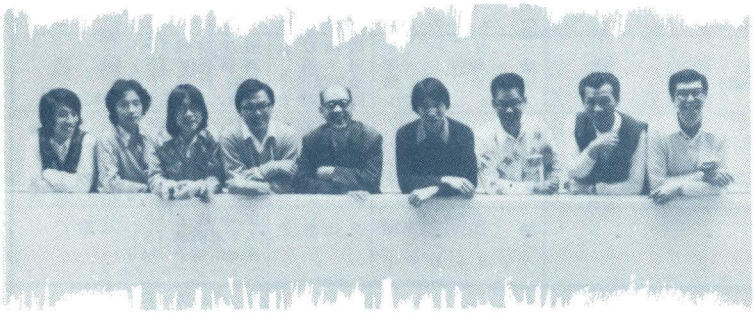
表面には出ないけれど、あるとなしとでは大違いなのがアルト。人間も同様。でも、「あー、このソプラノ、パート歌いたい」って思うことも。そのくせ、たまに主旋律を歌うと「色気まるでなし！」って叱られてしまう。

より深く、色気ある縁の下の力持ちたらんと、日々、努力しています。（松本美代子）

アルト

テノール

われら浦混テノールは、ソプラノ、アルト、バスの各パートあってのテノールという自覚のもと、誠実性と献身性を備えて合唱のためならエンヤコラサとコレ努めているのであります。平均年令も他パートに比して若々しく、全員が昭和二ケタ生れという（ちょっと違ったかな？）清新の気満ち溢れて明るく陽気に健康で充実感を抱いて、美しいAの音を出すためにも合宿のときなど酒は厳禁とお互いに自粛しつゝも飲まねばならぬ苦しみに堪えて悲鳴ともとれる声での頑張りであります。この涙ぐましい努力をするメンバーの職業もバラエティに富んでおり、櫛をまったく必要としない造花屋の親分を始め、「オツルさん」の愛称で親しまれる全日本合唱連盟の事務屋さん、「犠牲になるのなら喜んで!!」という実行型の都庁職員。(勿論美女のみのイケニエを志す。) それに母性本能をくすぐる感じたっぷりの可愛い音大生二人。ハネムーンをヨーロッパでやったキザな保険屋。すべてに悟り顔の縁の下の力持ちと、無邪気に「蛙の夜廻りゲッコ、ガッコ、ピョン。」と半日踊ったのが祟り風疹で寝込んだ調律屋。底抜けにノリたがる国鉄の切符切りに生臭坊主の自衛隊等々の集いであり、一人を除いてだれも女性には好かれません。と書けば、その一人は俺だろうと老若を問わず云いだす愉快なテノール馬鹿達で あります。　　（熱田英明）



バス



我等のバスは、若干平均年令が高く、と云ってこればかりは、現メンバーをそのまま若返らす事もできず、たまたま熱心な連中が我々の年代に多かったということでご理解戴き、若い声を出す発声訓練に期待することにします。

やはり混声のバスパートは、3パートと比較的音が離れている場合が多く、半ば客観的に半ば遅れて(?)3パートのあら探しなどしながら、時に調和の取れた響きが聞えてくると頼もしく思い、又時には、若干くたびれた声に歎くこともあり、それらの下から支えている気分も悪くありません。たゞ本格派の、又いい意味の硬質の低音が少なく、これはどの日本のアマチュア合唱団でも共通の悩みでしょうが、曲によっては作曲の意図する低音を豊かに表現できないもどかしさにぶつかります。せめて下のC迄むらなく響く、い、楽器のチェロ位の音量が欲しいのですが無理なようです。又上のC以上の音のとき、バスの発声の構えからは非音楽的な音質になり勝ちで、技術を要するところです。

我等のバスは、いつもトップコンディションで唱える状態でもなく、相当唱って下が出にくゝなる傾向のときもあり、時には声帯の脱力関係からか、或るポイントから音がよく出る様になることもあり、不思議な楽器だと思っています。（大和田健二）

〔演奏会〕

	演奏曲目	作曲者	指揮者	主な共演者
第一回演奏会 1959年5月 (昭和34年) (浦和市立高校体育館)	1．世界民謡めぐり 2．信時潔作品集 3．イタリア民謡集 4．「ドイツレクイエム」より第四楽章 5．照らせや光を	 ブラームス グノー	渋谷禎三 〃 金子一雄 渋谷禎三 〃	高橋希代子（P）
第二回演奏会 1961年6月 (埼玉会館)	1．黒人霊歌集 2．バビロンの河辺にすわり 3．ウィーンの森の物語 4．ジプシー生活	 グノー ヨハンシュトラウス リスト	 渋谷禎三 〃 〃	安藤明子（P）
第三回演奏会 1962年6月 (埼玉会館)	1．愛唱歌集 2．モテット「イエスはわが喜び」 3．誕生の讃歌 4．交響曲第九番第四楽章	 バッハ シューベルト ベートーベン	 渋谷禎三 〃 〃	中野俊也（P） 東京都民合唱団
第四回演奏会 1963年6月 (東京文化会館小ホール)	1．ロバートショウ編曲（民謡集） 2．祈り・鱒 3．組曲「旅」	 シューベルト 佐藤真	 渋谷禎三 木下保 渋谷禎三	永瀬満里子（P）
第五回演奏会 1965年5月 (東京文化会館小ホール)	1．ロバートショウ編曲（フォスターアルバム） 2．童謡集 3．ミサ・アド・フーガム 4．組曲「田園わが愛」	フォスター パレストリーナ 山本直純	桑久保律行 大塚真澄 田中信昭 大塚真澄	東福寺みよ子（P）
第六回演奏会 1968年3月 (埼玉会館大ホール)	1．組曲「蔵王」 2．フォークソングアルバム 3．オラトリオ「天地創造」より	佐藤真 ハイドン	遠藤猛 〃 田中信昭	東京混声合唱団
第七回演奏会 1970年5月 (埼玉会館大ホール)	1．マトラの風景 2．沙羅（女声合唱） 3．日本民謡（男声合唱） 4．「レクイエム」	コダーイ 信時潔 清水脩 フォーレ	岡部成子 臼木恵二 桑久保律行 岡部成子	田尻明規（P） 高橋恵子（S） 丹羽勝彦（Br） 東京大学音楽部管弦楽団
第八回演奏会 1972年5月 (埼玉会館大ホール)	1．オラトリオ「四季」より春 2．「レクイエム」K626	ハイドン モーツァルト	田尻明規 濱田徳昭	大野はるみ（S） 藤田みどり（A） 稲田浩（T） 大野国夫（B） 東京楽友協会交響楽団
第九回演奏会 1973年6月 (埼玉会館大ホール)	1．「コタンの歌」 2．「グローリア」	湯山昭 ヴィヴァルディ	久山恵子 〃	田中瑤子（P） 八木恵美子（S） 菊池玖美子（MS） アンサンブル・アルス・ノーヴァ
第十回演奏会 1974年12月 (埼玉会館大ホール)	1．オラトリオ「メサイア」	ヘンデル	久山恵子	高あけ美（S） 金森静子（MS） 三林輝夫（T） 松尾篤興（B） 東京アンサンブル
第十一回演奏会 1976年5月 (埼玉会館大ホール)	1．ワルツ集「愛の歌」より 2．「島よ」 3．「レクイエム」	ブラームス 大中恩 フォーレ	三林輝夫 〃 久山恵子	田中瑤子（P） 井手上京子（P） 嶺貞子（S） 持田篤（Br） 新交響楽団 絹村光代（Org）

浦混のあゆみ

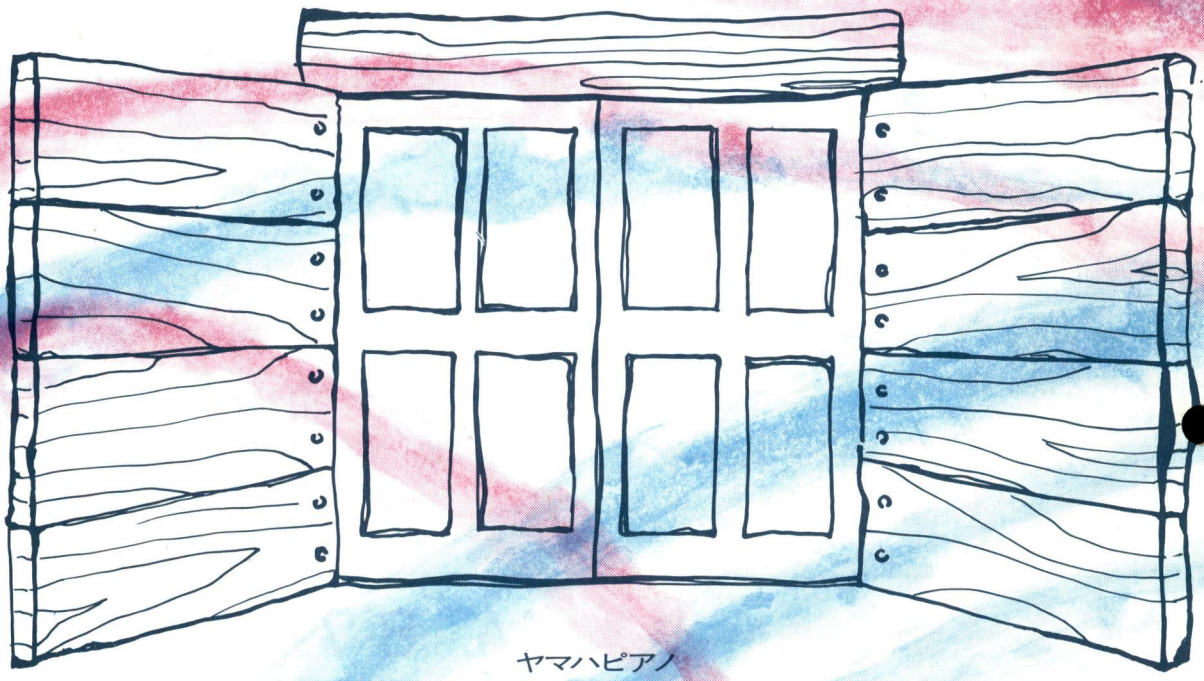
〔合唱コンクール〕　（1－課題曲・2－自由曲）

年度	演奏曲目	作曲者	指揮者	年度	演奏曲目	作曲者	指揮者
1958 (昭和33年)	1．ふるさと 2．マトナの君よ	小山章三 ラッソ	渋谷禎三	1967	1．風のうた 2．「蔵王」より“蔵王讃歌・どっこ沼・苔の花”	小倉朗 佐藤真	遠藤猛
1959	1．ひぐらし 2．照らせや光を	佐藤真 グノー	〃	1968	1．花の芯 2．「四声のミサ」より“グローリア”	平野淳一 モンテヴェルディ	〃
1960	1．小人の雪よ 2．「レクイエム」より“オスティアス”	佐々木伸尚 モーツアルト	〃	1969	1．はくちょう 2．マトラの風景	大友奈雅子 コダーイ	岡部成子
1961	1．野は春ぞ 2．バビロンの河辺にすわり	清水吾郎 グノー	〃	1970	1．（なし） 2．焔の歌・火の山	清水脩	小鍛治邦宏
1962	1．祭 2．モテット「イエスはわが喜び」	清水吾郎 バッハ	〃	1971	1．（なし） 2．「嫁ぐ娘に」より“戦いの日々・かどで”	三善晃	田尻明規
1963	お休み			1972	1．子等を思ふ歌 2．グローリア	信時潔 ヴィヴァルディ	臼木恵二
1964	1．今日の電車 2．田園わが愛	大中恩 山本直純	大塚真澄	1973	1．永遠の奇蹟 2．リスト讃歌	ビクトリア コダーイ	〃
1965	1．海風 2．嵐の神	中島恒雄 シューベルト	遠藤猛	1974	お休み		
1966	1．笛を吹く 2．「私の願い」より“雲雀にかわれ”	清水脩 高田三郎	〃	1975	1．ジャン・ラシーヌ頌 2．Il est bel et bon.（私のいい人）	フォーレ パスロー	三林輝夫

さぁ…　5月の窓をあけて

あなただけのメロディ

さがしてみませんか



ヤマハピアノ

エレクトーン

ステレオ

日本楽器特約店・ソニー特約店

和幸楽器

与野市上落合902

TEL0488-52-8500